

「大丈夫！」という言葉の意味

少々遅れましたが、新年おめでとうございます！今年「小児クリニックたまなは」が平成5年12月に開業して20周年を迎える記念の年です。これまで地域の皆様に支えられてきた当クリニックですが、今後も有意義な意見を取り入れながらより良いクリニックを目指していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

さて、昨年（平成24年）12月20日、東京都調布市の市立富士見台小学校で牛乳アレルギーの5年生女子が、チーズ入りのチヂミを食べた後、3時間後に死亡したニュースがありました。チーズを抜いて調理されたチヂミを食べた後、おかわりを希望し担任教師が誤ってチーズ入りのチヂミを渡したというのです。

献立内容の中で女子におかわりさせてはいけない食品に「×」をつけた「除去食一覧表」を担任教師向けに特別に作成していました。しかし、保護者が念のためにおかわりさせてはいけない食品にマーカーを引いて持参させていた「前月配布の献立表」で、チヂミにマーカーが引かれていなかったことから、「おかわり表」の確認をしないまま渡したという事です。

そこで私が疑問に思ったのは、誤食はいつでも起こり得ると思いますが、その時の対処がどうだったのかという事です。食物アレルギーの重篤なアナフィラキシーでは、対処が遅れると約30分で心停止します。そのため重症な食物アレルギーの子は「エピペン」というアドレナリン注射液が自動的に注射できるペン状の器具を持参するように指導されています。（クリニックで保険処方可）

その女の子も「エピペン」を持参していたらしいのですが、適時に使用していなかったようです。おかわりのチヂミを食べた後、気分が悪そうになったので、担任教師が「エピペン」を打つのを本人に尋ねたところ「大丈夫」と言ったのでしばらく様子を見ていたという事です。30分以上たってから救急隊が来て「エピペン」を使用したとしても遅すぎたのでしょうか。病院に運ばれて発症から3時間後に死亡しています。

ここで問題なのは、「大丈夫」という言葉です。子ども達が「大丈夫」と言っても大丈夫でない場合があります。

クリニックで時々、点滴が必要な場合があります。母親は子どもに「点滴する？」と聞きます。本人は「大丈夫」と答えるのです。ここでの「大丈夫」は「注射はいや」という意思表示ですが、時々その母親は「本人がそう言っていますので・・・」と言って帰ろうとします。本人の意見を聞くという行為は尊重されますが、「大丈夫」という言葉は要注意です。もちろん、当方がハッキリ「点滴しましょう！」と強く出れば問題ない事ではありますが・・・。

亡くなった女の子が「大丈夫」と言っても、「エピペン」を使用しておれば死ななくても済んだのにと残念でなりません。「エピペン」の普及が大事ではありますが、早すぎて使用しても副作用で問題になるような事はありませんが、使用しなかった場合には問題になる（死亡する）こともあるという事です。

新年早々暗いニュースですが、これもまた教訓として同じような犠牲者が出ないように啓蒙していきたいものです。（たまなは）